

香芝市複合施設整備基本計画 (案)

令和8年6月



香芝市
Kashiba City

目次

1 背景と目的	2
(1) 基本計画策定の目的	2
(2) 計画予定地の概要	2
(3) 計画予定地周辺に立地する施設	5
(4) 関連する計画等	7
ア 第五次香芝市総合計画(令和3年度から令和14年度まで)	8
イ 第三次香芝市生涯学習推進基本計画(令和4年度から令和15年度まで)	9
ウ 香芝市都市計画マスタープラン(平成30年3月)	11
エ 香芝市立地適正化計画(令和6年12月)	12
オ 香芝市公共施設等総合管理計画(平成28年11月 令和4年3月改訂)	15
香芝市公共施設再編計画(平成29年3月)	
(5) 他市事例の活用	16
ア 大和市文化創造拠点 シリウス(神奈川県大和市)	16
イ 丸亀市市民交流活動センター マルタス(香川県丸亀市)	16
ウ 東大阪市文化創造館(大阪府東大阪市)	16
(6) まとめ	16
2 整備目的の整理	17
(1) 機能集約と多機能化	17
(2) 世代を超えた交流、学習の場	17
(3) 都市拠点性	17
(4) 持続可能性、経済性	17
3 整備目標と基本コンセプト	18
4 複合施設の整備計画	19
(1) 複合施設の全体像	19
(2) 導入機能及び規模の検討	20
ア 音楽ホール機能	20
イ 図書館機能	25
ウ 貸室機能	28
エ 多目的スペース機能	32
オ 博物館機能	33
カ キッズルーム機能	35

キ	商業施設誘致スペース	37
ク	共用部	38
ケ	駐車場機能	39
コ	その他	39
(3)	複合施設整備イメージ	40
(4)	ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の検討	41
(5)	概算事業費の検討	41
(6)	事業手法及び運営方式の検討	41
ア	事業手法の種類	41
イ	各事業手法の比較	42
ウ	事業手法の検討結果	43
エ	運営方式の種類	43
オ	各運営方式の比較	44
カ	運営方式の検討結果	44
(7)	今後のスケジュール	45
5	市民意向調査、ヒアリングについて	46
(1)	目的、位置付け	46
(2)	市民アンケート、ヒアリングの概要	46
(3)	市民アンケートの分析	46
ア	音楽ホール機能	46
イ	貸室・多目的室機能	50
(4)	ヒアリングの分析	53
ア	音楽ホール機能	53
イ	貸室・多目的室機能	59
ウ	図書館機能(運営側)	61
エ	博物館機能(運営側)	63
6	今後の設計への課題	65

1 背景と目的

(1) 基本計画策定の目的

香芝市では、昭和 50 年代以降の人口増加期に整備された多くの公共施設が老朽化しており、順次、大規模改修や建て替えの時期を迎えている。特に、香芝市中央公民館及び香芝市ふたかみ文化センターでは、設備の老朽化に加え、利用者の固定化、高齢化といった課題が顕在化している。

本計画は、老朽化により除却されたモナミホールの代替機能を確保することを起点とするものである。単独施設としての建て替えではなく、将来の人口動向や財政面を踏まえ、ホール機能を核に、図書、学習、交流等の機能を一体化した複合施設として整備することにより、文化活動及び市民活動の継続性と公共的価値を高めることを目的とするものである。既存施設の老朽化や維持管理費の増大、代替機能として必要となる規模や立地条件の整理を行った結果、複合化案が最も効果的であるとの判断に至った。

本計画における施設の複合化は、複合化そのものを目的とするものではない。各施設を複合することにより、機能の相互連携を強化し、それぞれの充実を図るとともに、建設費及び維持管理費の抑制を実現するための手段として位置付けている。上記のことを踏まえ、「香芝市複合施設整備基本計画」を策定した。

(2) 計画予定地の概要

計画予定地は、香芝市役所、総合体育館、既存文化施設等が集積するエリアに位置する香芝市役所南側駐車場を中心とする。交通アクセス性に優れているほか、将来的な庁舎建て替えや駐車場再編も見据えた一体的な拠点形成が可能な立地条件を有している。

計画予定地の概要は、表 1-1 のとおりである。



図 1 - 1 計画予定地位置図



図 1 - 2 計画予定地概要図

「表 1 - 1 計画予定地の概要」

所在地	奈良県香芝市本町 1 3 9 7 番地
敷地面積	約 7, 7 0 0 m ²
用途地域	市街化調整区域
建蔽率・容積率	建蔽率：70%、容積率：400%
接する道路	国道 1 6 5 号線、市道 9 - 1 8 1 号線、市道 9 - 1 8 7 号線

「表 1 - 2 計画予定地周辺の立地施設」

<p>公 共 施 設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 香芝市役所 ・ 総合体育館 ・ ふたかみ文化センター ・ 香芝中学校 ・ 今池親水公園 ・ 香芝警察署 ・ 市民図書館 ・ 二上山博物館 ・ 下田小学校 ・ 香芝消防署 ・ 香芝市総合福祉センター <p style="text-align: right;">など</p>
<p>民 間 施 設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR香芝駅 ・ 介護老人施設（老人ホーム、デイサービス施設） ・ 金融機関 ・ 大学 ・ 大規模店舗 ・ ドラッグストア ・ 飲食店 ・ 近鉄下田駅 ・ 郵便局 ・ 保育施設 ・ スーパーマーケット ・ コンビニエンスストア ・ 医療機関 ・ 学習塾 <p style="text-align: right;">など</p>

(4) 関連する計画等

本計画は、香芝市の最上位計画である「第五次香芝市総合計画」に基づき、「香芝市公共施設等総合管理計画」、「香芝市公共施設再編計画」、「香芝市複合施設整備基本構想」等の関連計画や、「香芝市都市計画マスタープラン」、「香芝市立地適正化計画」、「第三次香芝市生涯学習推進基本計画」等との整合を図りながら策定する。

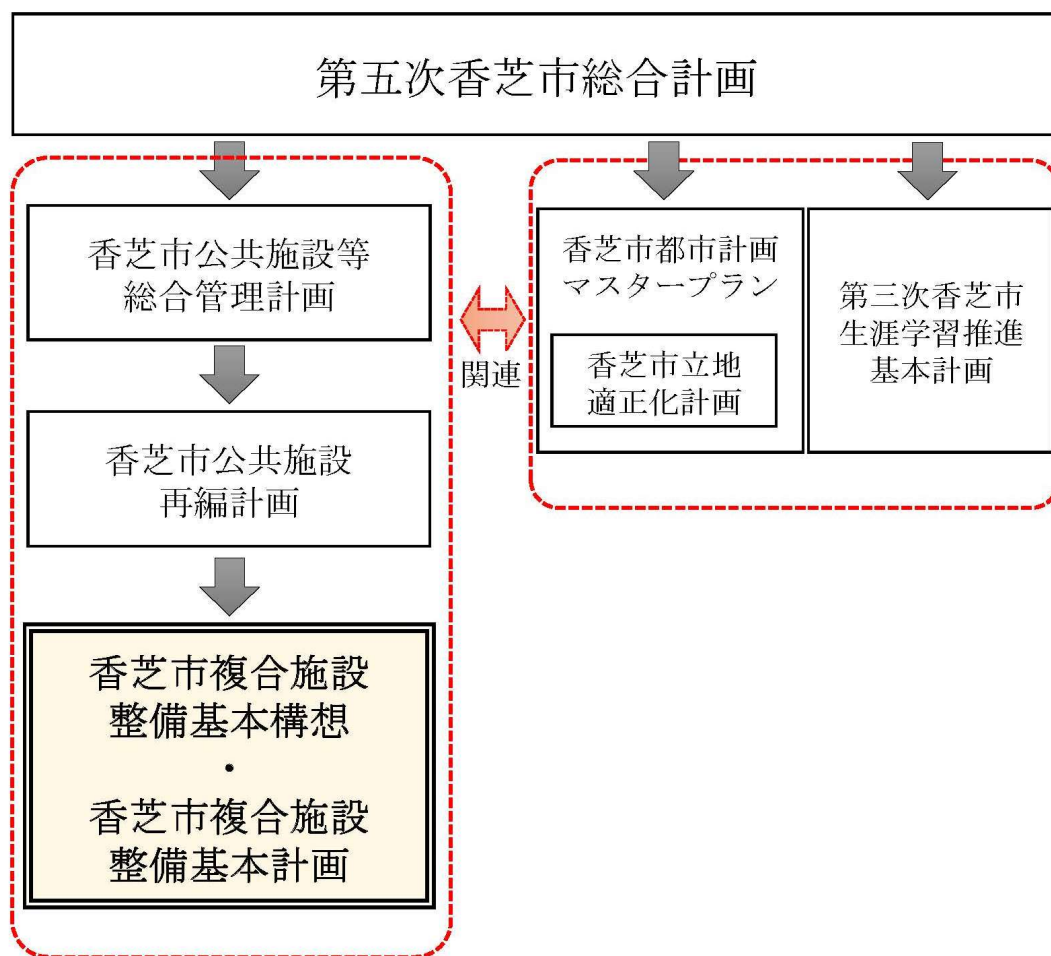


図1-4 本計画の整理

ア 第五次香芝市総合計画（令和3年度から令和14年度まで）

本計画の最上位には「第五次香芝市総合計画」が位置付けられている。同計画では、笑顔と元気が「もっと」溢れ、「ずっと」続き、まちも人も「色とりどりに」輝き続けることができる香芝市を目指し、「笑顔をもっと 元気をずっと ～誰もが輝く多彩なまち カラフルかしば～」をまちの将来像として掲げている。

複合施設は、この理念を具体化する重要拠点として、市民の交流促進や市街地活性化を担うことが期待されている。

◎香芝市が目指す将来像(12年後のあるべき姿)
・ 笑顔をもっと 元気をずっと ～誰もが輝く多彩なまち カラフルかしば～
◎香芝市を取り巻く環境
・ 人口減少と少子高齢化の進行 ・ 経済、雇用環境の変化 ・ 高度情報化社会の進展 ・ グローバル化のさらなる進展 ・ 社会の成熟化にともなう価値観の変化 ・ 安全、安心な社会の構築 ・ 持続可能な社会づくりの取り組み ・ 協働の在り方の変化 ・ 健全な財政運営の実現に向けた取り組み
◎基本的政策方針
・ 未来を創造する子どもたちのために。（子育て、教育） ・ 健康で自分らしく過ごせる毎日のために。（健康、福祉） ・ 誰もが等しく、生涯輝き続けるために。（人権、協働、文化） ・ まちの活力と魅力の向上のために。（産業、観光） ・ まちと人の安全、安心のために。（安全、安心） ・ 自然と調和した快適で便利な暮らしのために。（自然、環境、都市基盤）

イ 第三次香芝市生涯学習推進基本計画（令和4年度から令和15年度まで）

第三次香芝市生涯学習推進基本計画では、「学び合いがつむぐ、誰もが輝くまち香芝」を基本理念として掲げている。少子高齢化や市民ニーズの多様化といった社会背景を踏まえ、誰もが主体的に学び続け、地域と関わりながら成長できる生涯学習社会の実現を目指している。

複合施設は、学習、文化、交流、及び情報が集約される生涯学習と交流の拠点として講座や活動の場にとどまらず、市民同士がつながり、地域課題の解決や新たな活動を生み出すハブとして機能することが期待されている。

◎基本理念
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学び合いがつむぐ、誰もが輝くまち香芝
◎香芝市の生涯学習における課題の整理（抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅都市としての特性を踏まえた学習ニーズに応じて、地域の子育て世代や高齢者が学習を通じて生活を豊かにでき、また働く世代が働きながら学ぶことで、地域におけるつながりを充実させることができる環境づくり ・ 学習活動における施設利用のニーズが多様化しており、既存施設の活用方法を含めて今後を見据えた幅広い検討 ・ 行政、関係機関等や活動者同士の連携、協働をより一層進めていくこと
◎基本目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標 1：みんなが学べるまち <ul style="list-style-type: none"> (1) 多様なニーズに応じた学習の環境づくり (2) ライフステージに対応した学習機会の提供 (3) 文化、スポーツの振興 ・ 基本目標 2：学びでつながり活かすまち <ul style="list-style-type: none"> (1) 地域コミュニティの充実 (2) 学校と多様な主体の連携、協働の推進 (3) 学び合う機会の充実 (4) 学習成果を発揮する機会の充実 ・ 基本目標 3：みんな学びをすすめるまち <ul style="list-style-type: none"> (1) 学習環境の充実 (2) 多様な手段による学習情報の発信 (3) 市民と連携、協働してすすめる生涯学習

ウ 香芝市都市計画マスタープラン（平成30年3月）

香芝市都市計画マスタープランは、大阪近郊の住宅都市として発展してきた香芝市が、将来の人口減少や少子高齢化を見据えつつ、自然環境や歴史資源を保全しながら、安全、快適で持続可能な都市構造を形成することを目的とした計画である。本計画では、土地利用、道路、公共交通、生活基盤、景観、防災、公共施設配置等について示されている。

複合施設は、市民協働のまちづくりや都市機能の集約、拠点性の強化を図る中で、行政、福祉、文化、交流等の機能を集約する地域の中心拠点となることが期待される。複合施設は、住民サービスの向上と地域交流の促進に加え、市街地活性化を担う重要な施設である。

◎都市づくりの基本理念	
・笑顔と元気！！ 住むなら かしば	
◎都市づくりの課題（抜粋）	
<ul style="list-style-type: none"> ・個性のある美しい景観の形成 ・にぎわいと活力のある商工業の振興と中心拠点の拠点性向上 ・快適な生活環境の確保 	
◎都市づくりの目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を生かした誇りと魅力ある都市づくり ・活力とにぎわいのある計画的な都市づくり ・安全で快適な生活基盤の充実した都市づくり ・市民とともに取り組む協働の都市づくり 	

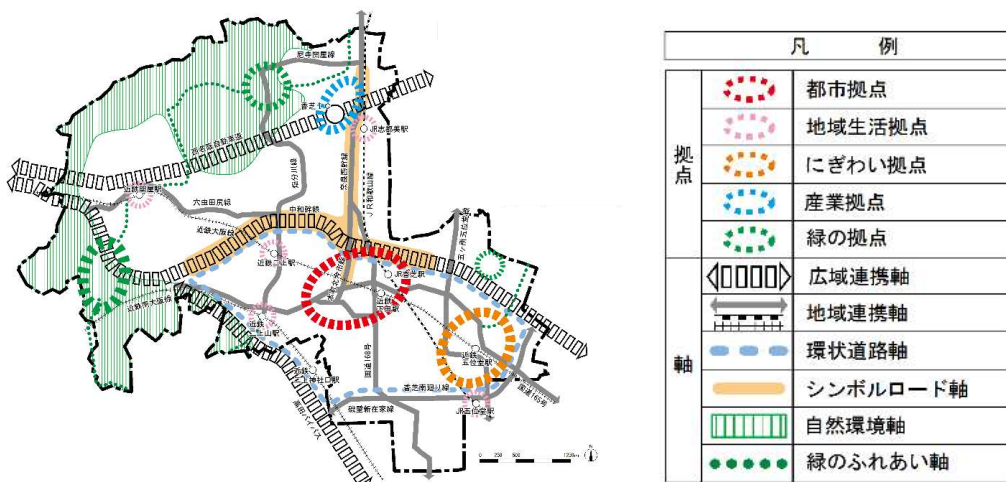


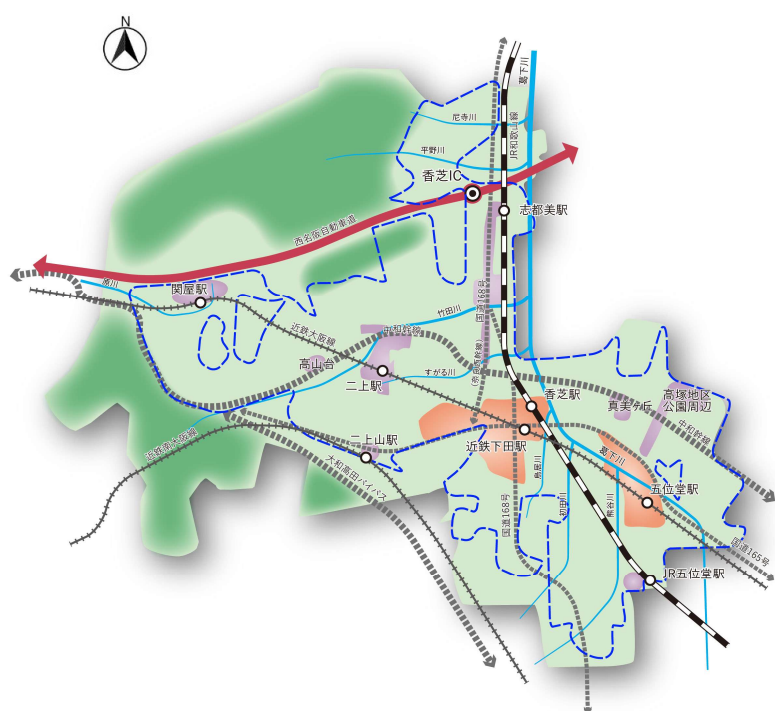
図 1 - 5 地域整備の方針図

エ 香芝市立地適正化計画（令和6年12月）

香芝市立地適正化計画は、人口減少と少子高齢化の進行を見据え、居住と都市機能を適切に誘導、集約し、「コンパクト、プラス、ネットワーク」による持続可能な都市構造の形成を目指す計画である。都市機能を集約することにより、生活利便性の維持及び向上を図るとともに、公共投資の効率化や防災性の強化を進めることとしている。

複合施設は、行政、福祉、子育て、文化、交流等の機能を複合的に担う公共施設の集約と再編を象徴する存在として地域の求心力向上に寄与するとともに、市民活動や多世代交流を促進する重要な都市拠点となることが期待される。

◎まちづくりの基本的な考え方
・安全に、快適に、元気に、笑顔あふれるまち かしば
◎都市づくりの課題（抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、少子高齢化への対応 ・地域の活力を保てる都市構造の構築 ・駅周辺の活力の向上及び居住エリアの生活利便施設の維持、充実 ・地域に応じた課題への対応
◎基本的な方針（抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・拠点を取り巻く快適な暮らしの場の形成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 拠点周辺への生活サービス機能の誘導による居住の誘導 (2) 住宅ストックの循環、空き家の発生の予防 ・元気で求心力のある拠点の形成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 地域ごとの特性を生かした拠点形成 (2) 市民ニーズに応じた都市機能の集約 ・持続可能な都市交通環境の形成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 複数の交通手段が連携した公共交通サービスの維持 (2) モビリティマネジメントの実施による意識醸成 ・災害に強い安全なまちの形成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 河川低平地における水害リスクの回避、低減 (2) 土砂災害リスク等の回避、低減 ・出掛けたくなる魅力あふれるまちの形成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 人と人がつながる多様な地域コミュニティの強化 (2) 近隣市町との連携により、市外からも多くの人が集い、周遊できる仕組みづくり



凡 例		
区域	市域	
	市街化区域	
拠点	中心拠点	
	生活拠点	
連携軸	広域連携軸 (高速道路)	
	広域連携軸 (道路)	
	地域連携軸 (道路)	
	地域連携軸 (鉄道)	
河川		

図 1-6 目指すべき都市の骨格構造

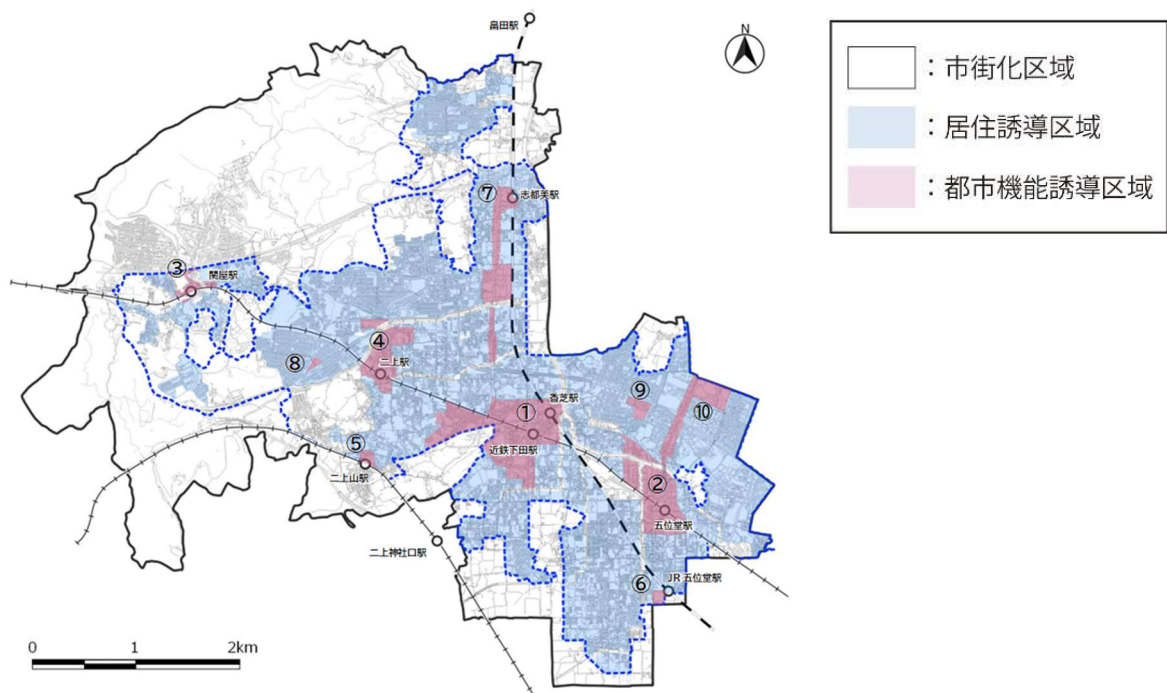


図 1-7 都市機能誘導区域について

オ 香芝市公共施設等総合管理計画（平成28年11月 令和4年3月改訂）

香芝市公共施設再編計画（平成29年3月）

香芝市公共施設等総合管理計画では、施設の長寿命化、集約化及び複合化によるコスト縮減と市民サービスの向上を図るとともに、将来の人口減少や財政制約への対応を基本方針としている。複合施設は、これまで単独で整備されてきた施設の機能を統合し、効率的な運営及び維持管理を実現するモデルケースとなるものである。

同計画は、公共施設の老朽化や将来的に膨大となる更新費用、人口減少、少子高齢化、財政制約といった課題に対応するため、公共施設及びインフラの最適化と持続可能な運営を図る指針として位置付けられている。新規施設の抑制と更新時における複合化及び多機能化を前提とした「施設重視から機能重視への転換」並びに計画的な維持管理と長寿命化によるコスト縮減並びに民間活力や広域連携の活用を基本方針としている。

複合施設は、各種機能を集約し、多世代交流や地域活動拠点として整備することで、市民サービスの向上と効率化を両立する象徴的な施設となることが期待される。

◎全体方針
・将来の”まちづくり”を見据えた公共施設の再編と、次の世代に負担を残さないための財政負担の軽減、平準化により、行政サービスの維持、向上を実現する！
◎基本方針（抜粋）
・適切な維持管理、長寿命化によるライフサイクルコストの縮減及び更新コストの平準化 ・”施設重視”から”機能重視”への転換 ・近隣自治体との連携 ・民間事業者との協働の促進
◎具体的な方策（抜粋）
・建て替えと大規模改修（長寿命化）の併用、施設の優先順位づけ ・ニーズに応じた機能の見直し ・複合化、多機能化 ・民間活用 ・適正な受益者負担の検討

(5) 他市事例の活用

ア 大和市文化創造拠点 シリウス（神奈川県大和市）

各階の共用部に図書スペースを設けることで、利用者が日常的に立ち寄りやすい施設になっている。

イ 丸亀市市民交流活動センター マルタス（香川県丸亀市）

市庁舎と市民交流センターを一体的に整備し、様々な層の市民が憩い、にぎわいを生む施設になっている。

ウ 東大阪市文化創造館（大阪府東大阪市）

ホールと併せて貸室やブックライブラリー等を整備することで、多様な利用者が思い思いに時間を過ごせる施設になっている。

(6) まとめ

複合施設は、前述のような計画的背景を踏まえ、行政機能や周辺公共施設と連携しながら、香芝市の中心拠点として新たな役割を担うことが期待される。音楽ホールや博物館といった文化機能により、市民の日常的な文化活動や学びを支えるとともに、地域の歴史や資源を発信することで、観光的視点からの魅力向上や交流人口の拡大にも寄与することが期待される。また、図書館や共用空間を通じた情報発信や市民交流の場の形成により、世代を超えた活動が生まれ、市民の居場所となる拠点へと発展する可能性を有している。

本計画は、老朽化した既存施設の更新にとどまらず、関連計画を意識しつつ、周辺施設と連携することで、香芝市の中心に新たなにぎわいと魅力を創出する契機となるものである。複合施設を通じて、市民の日常利用から非日常的なイベントまでを受け止める都市の核を形成し、将来にわたって市民に親しまれ、活発な活動が継続される拠点となることを目指す。

2 整備目的の整理

「1 背景と目的」で整理した背景や関連計画等を踏まえ、本章では香芝市複合施設の整備目的の整理を行う。

(1) 機能集約と多機能化

- ・旧香芝市モナミホール、香芝市中央公民館、香芝市ふたかみ文化センターの機能を集約し、施設の重複や非効率性の解消を図る。
- ・音楽ホール、図書館、博物館、貸室、キッズスペース、商業施設等を備えた多機能な複合施設を整備する。
- ・市民サービスの質の向上を図るとともに、運営コストの縮減を目指す。

(2) 世代を超えた交流、学習の場

- ・子どもから高齢者まで、誰もが安心して利用できる「市民の居場所」の創出を目指す。
- ・生涯学習、地域活動、文化芸術及び創造的活動の拠点形成を図る。
- ・市民の郷土愛やシビックプライドを育む象徴的な空間の実現を目指す。

(3) 都市拠点性

- ・行政、文化及びスポーツが連携する複合拠点（シビックコア）として、都市の核の形成を図る。
- ・災害時には、指定緊急避難場所を担う多目的な利用が可能な空間を確保する。

(4) 持続可能性、経済性

- ・ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化やユニバーサルデザインの導入、ライフサイクルコスト削減を推進する。
- ・カフェ等の民間事業者との連携や賃料収入の導入により、財政負担の軽減を図る。

3 整備目標と基本コンセプト

「1 背景と目的」で整理した背景や関連計画等を踏まえ、本章では複合施設の整備目標及び基本コンセプトを設定する。

複合施設は、隣接する香芝市役所及び香芝市総合体育館を含めて、行政、文化及びスポーツの機能が一体となった「シビックコア」としての役割を担い、日常的な市民活動から非日常的なイベントまで、多様なニーズに対応できる施設とする。

また、市民が学習や活動の成果を発表できる文化的魅力を広く発信する拠点とするとともに、気軽に立ち寄って居心地よく過ごせる場所（サードプレイス）となることを目指す。

さらに、複合施設は、単に各機能を満たす「箱」としての施設にとどまらず、音楽ホール、図書館、博物館といった機能が相互に連携することで、本施設ならではの新たな「学び」「交流」及び「感動」の体験を生み出し、再訪意欲につながる魅力を備えることが求められる。そこで、共用部に図書館機能を配置し、各機能をつなぐ役割を持たせることで、日常的なにぎわいを創出するとともに、機能同士の連携を高める。これにより、施設全体の一体感を形成し、市民の共創による文化のスパイラルアップを図る。あわせて、共用部が図書館機能を兼ねることで、延べ床面積を抑え、コスト削減につなげる。

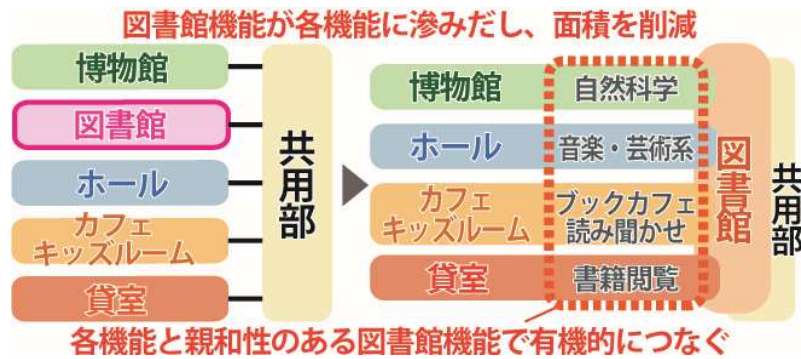


図 3-1 図書館機能で各機能をつなぐイメージ

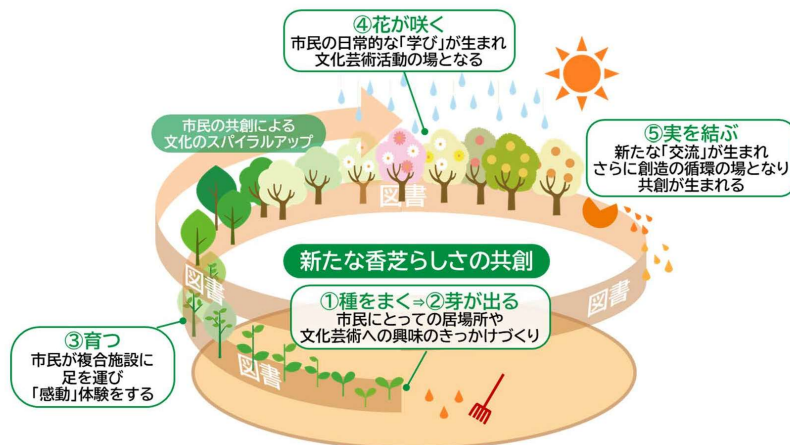


図 3-2 基本コンセプトイメージ

4 複合施設の整備計画

(1)複合施設の全体像

「3 整備目標と基本コンセプト」に示す基本コンセプトに基づき、旧香芝市モナミホール、香芝市中央公民館及び香芝市ふたかみ文化センター（市民図書館、二上山博物館を含む）が担ってきた機能を基本として、音楽ホール、図書館、博物館、貸室、多目的スペース及び共用部を整備する。さらに、施設の利便性や魅力の向上を図るため、キッズスペースや商業施設誘致スペースなどの付加的な機能も導入する。

機能	主な整備予定諸室 (※1)	基本構想での 整備想定規模 (㎡)	基本計画 整備想定規模 (㎡) (※1)	※参考 既存施設規模 (㎡)
音楽ホール	客席、舞台、舞台設備、楽屋、リハーサル室等	2,000	5,000	モナミホール 1,612
図書館	開架書庫、閲覧スペース、お話しスペース、キッズコーナー、自習室 共用部の図書スペース等	4,000	3,200	市民図書館 2,035
貸室	会議室、和室、調理実習室、防音室等	1,500	1,500	中央公民館 1,713
多目的スペース	展示スペース、多目的室	500	500	—
博物館	展示室、收藏庫、作業室、研究室等	1,500	1,500	二上山博物館 1,098
共用部	交流スペース、事務室、機械室、階段、E V等	4,000	1,800	ふたかみ文化センター 7,659
追加機能	キッズルーム	500	500	—
	商業施設誘致スペース	500	500	
合計		約14,500	約14,500	約14,117

基本構想段階では、延床面積約14,500㎡を想定していたが、ホールに求められる必要面積に対して、バックヤードや舞台関連諸室の面積が十分とはいえない点が課題となっていた。このため本計画では、延床面積約14,500㎡という全体規模は維持しつつ、ホールを中心に面積配分の見直しを行い、各機能の規模や構成を再整理している。各機能の想定規模については、今後、事業費、運営手法、利用ニーズ等を踏まえ、適宜調整していくものとする。

(2) 導入機能及び規模の検討

ア 音楽ホール機能

(ア) 導入機能の考え方

旧香芝市モナミホールは、約1,000人を収容できるホールとして市民の文化活動等に利用されてきたが、老朽化により令和4年9月末に建物の除却を完了している。新しい音楽ホールの導入検討に当たり、旧モナミホールが約1,000人規模であったことや、広域的な施設相互利用の状況、音楽ホールの維持管理コスト等を踏まえ、本市としては約1,000人を収容できるホールを整備することが適正規模であると判断した。

音楽、ダンス、演劇、講演会、式典等に対応できるホールを目指し、客席数は約1,000席規模を当面の検討ベースとして、具体的な席数、客席構成（1階に全席を設ける場合、2層構成とする場合等）や、舞台設備の優先順位（音響反射板を含めた舞台機構設備、舞台音響、舞台照明設備等）、付帯諸室（楽屋、リハーサル室等）は、基本計画において整理の上、基本設計段階で精査する。

(イ) 音楽ホール機能の想定規模

主な整備諸室	整備想定規模 (㎡)	※参考 旧モナミホール の規模 (㎡)
音楽ホール(舞台+客席)	1,500	1,100
ホワイエ	550	530
楽屋	250	100
リハーサル室	250	0
その他(倉庫、共用部分等)	2,450	1,251
計	5,000	2,981

(注：今後の設計業務等において、変更となる可能性があります。)

(ウ) 施設計画

音楽ホールは、市民文化団体の活動や発表をはじめ、学校利用や成人式などの式典利用、プロによる興行まで様々な利用に対応できる多目的ホールとする。市民の文化的な創造活動の実践の場と優れた舞台芸術の鑑賞の場として、利用者が使用しやすく鑑賞しやすいホールを計画する。

客席は音響効果や舞台の見やすさに配慮し、舞台大道具や楽器等の搬入出動線、利用者の動線等、使いやすさにも配慮する。

i 客席

- (i) 客席は、近隣他市町村のホールでは対応が難しいニーズに応えつつ、市民利用にも活用できる約1,000席の固定席とする。また、ホールは多様なニーズに対応できる1層から2層構成とする。
- (ii) どの客席からも舞台が良く見える配置とし、良好な鑑賞環境となるように整える。
- (iii) 座席自体をゆとりのある客席にするとともに、障害のある人や高齢者、親子での鑑賞に配慮する。
- (iv) 持込機材（音響調整卓、調光操作卓等）が設置できるように検討する。

ii 舞台

- (i) プロセニウム形式^{*}とする。
- (ii) 様々なジャンル、演目に対応できる十分なサイズの舞台を設ける。
- (iii) 主舞台サイズは、幅14.5m(8間)×奥行14.5m(8間)程度とし、十分な高さを確保する。
- (iv) 舞台袖は、搬入出や出演者の控え場所等に配慮し、上手、下手ともに十分なサイズを設ける。

※ プロセニウム方式とは…舞台と観客席が「プロセニウム（額縁）」によって区切られている劇場形式

iii ホワイエ

- (i) 来館者が開演前や休憩時間に憩い、くつろげる空間とする。
- (ii) ホールが使われていない時は、多目的な用途に対応できる自由度の高い空間として開放する。
- (iii) 十分な数の客用トイレとバリアフリートイレを設ける。

(iv) 主催者が利用できる控室を確保する。

iv 楽屋

(i) 多数の出演者に対応する必要かつ十分な設備も備えた大、中、小の楽屋を確保し、舞台近くに配置する等、出演者の動線に配慮する。

(ii) 楽屋事務室、楽屋ロビー、トイレ（バリアフリートイレを含む）、シャワールーム、給湯室、楽屋倉庫等を設ける。

v 搬入出口

(i) 11tトラック等の大型車両での搬入及び搬出に配慮する。

(ii) 舞台へのスムーズな搬入及び搬出が可能な位置とし、十分な動線と荷捌きスペースを確保する。

(iii) 悪天候時や夜間の作業に対処するため、屋内で荷おろしができるように配慮する。

vi リハーサル室

(i) 舞台芸術活動の練習の場、本番前の音合わせ、音楽（電気楽器を含む）、ダンス、演劇等の練習に対応できる空間とする。

(ii) 楽器演奏やダンス等に対応し、防音や振動に配慮した性能を確保する。

(iii) 楽屋や会議室としての使用もできるように、必要な設備や備品を設ける。

vii 倉庫

(i) 大道具備品や舞台等で利用する音響、照明機材を収納するための舞台備品庫を、舞台に近い位置に設ける。

(ii) 恒温恒湿に保つことのできる良好な環境のピアノ庫を、舞台に近い位置に設ける。

(エ) 文化、交流機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

I 多くの人々が集まり、交わることで、新たな出会いや絆の芽生えを促すことを目指して、空間や設備を整備する。

II 子どもから高齢者までの様々な人々が気軽に集い、様々な活動を通じて交流を深めることで市民活動とコミュニティの活性化を図る。

- Ⅲ 芸術、文化を通じて、多くの人が自己表現や自己実現をできる場とするため、ギャラリー機能を兼ね備えた展示スペースを整備する。また、図書館等を訪れた人が、これらの活動に触れることができるレイアウトや動線などを検討する。
- Ⅳ 生涯学習やサークル活動の他、地域コミュニティ活動やイベント等、多目的な用途に対応できる自由度の高い空間としてホワイエを開放する。また、リハーサル室には防音機能を備えることで、周辺環境にも配慮した施設とする。
- Ⅴ 利用者が多い図書館機能との連携を図り、多くの人々が楽しく学び、活動できる環境づくりを目指す。

整備イメージ



図4-3 音楽ホールの整備イメージ

(神奈川県大和市『大和市文化創造拠点シリウス』)

(オ)参考 (既存施設の概要)

名 称	ふたかみ文化センター
所 在 地	香芝市藤山一丁目17番17号
竣 工 年 度	平成4(1992)年4月
経 過 年 数	34年
構 造	鉄筋コンクリート造 地下1階、地上3階(一部SRC造塔屋あり)
延 床 面 積	8,502㎡
利 用 時 間	午前9時00分から午後10時00分まで (日曜日のみ午後8時00分まで)
休 館 日	毎月第1月曜日、12月28日から翌年の1月4日まで
主 な 諸 室	市民ホール(移動観覧310席)、小ホール(移動席50席)、 楽屋(3室)、図書館、博物館、研修室等

イ 図書館機能

(ア) 導入機能の考え方

現在の香芝市民図書館は、読書をはじめとする情報サービスを提供し、市民が知識や情報を得ることを目的に平成4年度にふたかみ文化センターの一部として整備した。また、年間で約18万人が利用しており、集客力の高い施設となっている。一方、建設から34年が経過しているため、施設の老朽化に伴う更新、改修の時期が近づいているほか、多様化する情報と市民ニーズに十分に対応するための書架スペースの不足、及び閲覧席や学習スペースの不足といった課題に加えて、バリアフリー、ユニバーサルデザインへの対応、駐車場の不足等、様々な施設上の課題を抱えている。

また、人口減少に伴う中心市街地の空洞化や、郊外開発の進行による街の低密度化といった都市の課題もあり、中心市街地に人の流れや都市機能施設の誘導を図ることで、まとまりのある生活利便性の高いまちを形成していく必要がある。

このような背景から、現在の市民図書館を移転することで、市民の生涯にわたる読書、学習活動等を支援するだけでなく、子どもから高齢者まで多くの市民が気軽に立ち寄り、充実した時間を過ごすことのできる「サードプレイス」としての場を提供することを目的として新図書館を整備する。

(イ) 図書館機能の想定規模

主な整備諸室	整備想定規模 (㎡)	※参考 既存図書館の規模 (㎡)
開架エリア	2,400	1,160
児童コーナー	100	80
閉架書庫	250	230
事務室、更衣室	200	150
視聴覚室、会議室	50	130
その他(サービスカウンター、倉庫、トイレ等)	200	285
計	3,200	2,035

(注：今後の設計業務等において、変更となる可能性があります。)

(ウ) 図書館機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 子どもから高齢者まで、誰もが利用しやすい図書館を目指し、他機能との連携や施設全体の統一感に配慮した整備を行う。文化、交流機能との連携においては、前述のとおり図書館機能を共用部に配置することで、図書が各機能をつなぐ役割を担う。具体的には、博物館周辺に科学や石にまつわる図書を配架するとともに、ホワイエには文化、芸術に関する書籍を配架することで、分野横断的な知識への興味や学びを促す。これにより、来館者の知的好奇心や学習意欲を育むとともに、市民の文化活動や交流の活性化につなげる。
- II 多くの市民が利用することを想定して十分な閲覧席数の確保や利用者の動線にも配慮した開放感に溢れる空間を創出することで、誰もが居心地の良さを感じられる滞在型の図書館を整備する。
- III 情報の集積地（知の拠点）としての適切な蔵書数を備えるとともに、地域の歴史や文化といった情報を継承する場とすることで、郷土の再発見に触れる機会を提供する。
- IV 現状の香芝市民図書館の蔵書数は約23万冊であるが、複合施設の整備に伴い、30万冊規模まで拡充する予定である。なお、開架図書及び閉架図書の構成割合については、今後の設計段階において詳細を検討する。
- V グループワーク等の利用形態を意識したにぎわいを生み出す閲覧席や、集中して読書、学習に取り組むことのできる静かなスペース等、様々なニーズに対応できる設備を整備する。
- VI 子どもの目線に合わせた配架や、読み聞かせ等を行うおはなしの部屋等を設けることで、「ワクワク」や「ドキドキ」に出会うことができる児童コーナーを整備する。また、おはなし室をガラス張りする等、オープンな空間としてしつらえることで、気軽に立ち寄りやすい環境を整える。
- VII 共用部に貸出図書を配架することを踏まえ、資料の適切な管理及びセキュリティ確保を目的として、ブックディテクションシステム（BDS）※を設置する。

※ ブックディテクションシステム(BDS)とは…図書館などで、未貸出の本の持ち出しを検知・防止するセキュリティシステム

整備イメージ

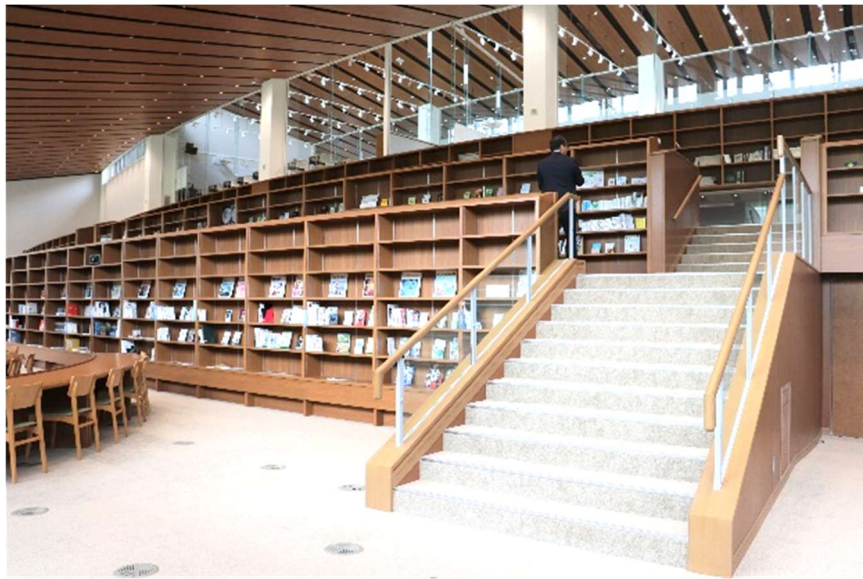


図 4-4 図書館機能の整備イメージ（智辯学園奈良カレッジ）

(エ) 参考（既存施設の概要）

名 称	香芝市民図書館
所 在 地	香芝市藤山一丁目17番17号 (香芝市ふたかみ文化センター3階)
竣 工 年 度	平成4(1992)年4月
経 過 年 数	34年
延 床 面 積	2,035㎡(共用部及び自習室を含む。)
利 用 時 間	午前9時30分から午後5時00分まで(金、土曜日 のみ午後7時00分まで)
休 館 日	月曜日(祝日の場合は、その翌日で一番近い平日)、 毎月第1木曜日(祝日及び休館日に該当する場合は第 2木曜日)、12月28日から翌年の1月4日まで、 蔵書特別整理期間

ウ 貸室機能

(ア) 導入機能の考え方

現在の貸室は、ふたかみ文化センター及び中央公民館内に存在し、文化活動、生涯学習及び地域交流の場として市民に利用されてきた。一方で、経年劣化に伴う施設の老朽化、諸室規模の制約、バリアフリー面の課題、利用形態の多様化への対応等、運営面や機能面での課題を抱えている。また、社会環境の変化に伴い、市民の学びや活動のニーズは多様化しており、利用目的(創作、練習及び発表)や活動規模も多様化していることから、市民の活動ニーズに応えられる柔軟な貸室機能を提供することがこれまで以上に重要になっている。

そのような背景から、複合施設の貸室は従来の文化、学習及び交流機能を継承しつつ、機能の集約化と多機能化により、より使いやすく、運営しやすい貸室として再編する。具体的には、会議、研修、講座、ワークショップ等に対応できる汎用性の高い諸室を基本とし、利用人数や活動内容に応じて柔軟に利用できる室構成や設備(可動間仕切り、備品、ICT環境等)を検討する。また、利用者のプライバシーに配慮が必要な活動、音の発生を伴う活動についても適切に対応できるよう、用途に応じたゾーニング、遮音及び音環境への配慮を行う。

さらに、音楽ホール、図書館、博物館、共用部等と複合化することで、学び、創作、鑑賞及び交流が相互に連携し、市民活動の広がりや再訪の動機につながる施設運用を目指す。貸室利用者が図書館、博物館展示及び情報発信に触れることにより、多世代の交流や地域活動の活性化を促し、市民の文化、学習及び交流の基盤強化に寄与することを期待する。

(イ) 貸室機能の想定規模

主な整備諸室	整備想定面積 (m ²)	※参考 既存施設の面積 (m ²)
(中央公民館機能)		
第 1 研 修 室	5 0	5 3
第 2 研 修 室	5 0	5 3
第 3 研 修 室	8 0	8 1

第 4 研 修 室	1 0 0	1 0 2
第 5 研 修 室	8 0	8 1
第 6 研 修 室	1 0 0	1 0 2
第 7 研 修 室	5 0	4 8
第 8 研 修 室	5 0	4 8
第 9 研 修 室	7 0	6 8
調 理 室	1 3 0	1 3 0
美 術 工 芸 室	6 0	6 1
視 聴 覚 室	1 3 0	1 2 8
和 室	4 5	4 6
茶 室	1 0	9
講 座 室	4 0	3 8
(ふたかみ文化センター貸室機能)		
第 1 会 議 室	7 0	7 1
第 2 会 議 室	6 0	6 4
第 3 会 議 室	7 0	6 7
第 4 会 議 室	8 0	7 7
和 室 第 1	3 0	3 3
和 室 第 2	3 5	3 3
市 民 ギ ャ ラ リ ー	1 1 0 (博物館と共用)	1 1 9
計	1, 5 0 0	1, 5 1 2

(注：今後の設計業務等において、変更となる可能性があります。)

(ウ)貸室機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 社会環境の変化（少子高齢化、生活様式の多様化等）に対応するため、市民の文化活動、学習活動及び地域交流の受け皿となる貸室機能を再編し、及び強化し、持続可能な公共施設サービスの実現を図る。
- II 市民の学びと活動を支援する拠点として、会議、研修、講座、ワークショップ等に対応できる汎用性の高い貸室を整備し、活動内容に応じて必要な設備（机、椅子、可動間仕切り、プロジェクター等）を備えることで、多様な市民活動を支援する。
- III 利用者の多様な相談、打合せ、準備作業等にも対応できるよう、少人数で利用しやすい小部屋や、グループでの協議や共同作業が可能な室構成を検討するとともに、プライバシーに配慮が必要な利用にも対応した室配置を整理する。
- IV 音の発生を伴う活動（音楽練習、演劇稽古等）に対応するため、防音性能を備えた貸室（スタジオ等）を必要に応じて整備し、他の諸室や共用部への影響を抑えながら、多目的な利用が可能となる環境を確保する。
- V 貸室は、音楽ホール、図書館及び博物館との複合化のメリットを生かし、活動成果の展示やミニ発表等の場となるとともに、関連情報に触れる機会を創出することで、利用者同士の交流や多世代の参加を促進させる。貸室のみで活動が完結するのではなく、各機能と連携した配置とすることで、貸室利用者以外の来館者にも活動の様子が見え、内容が伝わる環境を整える。これにより、市民の文化、学習及び交流活動の裾野拡大につなげる。

(エ) 参考 (既存施設の概要)

名 称	香芝市中央公民館
所在地	香芝市下田西三丁目7番5号
竣工年度	昭和55(1980)年4月
経過年数	41年
構造	鉄筋コンクリート造 地上3階建て
延床面積	2,634㎡
利用時間	午前9時00分から午後9時00分まで
休館日	毎月第1木曜日、12月28日から翌年1月4日まで

※ふたかみ文化センターについては、「イ 図書館機能」に記載

エ 多目的スペース機能

(ア) 導入機能の考え方

複合施設（音楽ホール、図書館、博物館、貸室等）が整備されることで、多様な人々が出会い、つながり、交流が生まれることが期待されるが、その効果をさらに増幅させることを目的に、「大人数、多用途に対応できる場」として多目的スペースを整備する。多目的スペースは、講演会、説明会、ワークショップ、展示、成果発表、練習、イベント等に柔軟に対応できるよう、平土間を基本とし、必要に応じてレイアウト変更が可能な空間とする。また、日常的に利用される“居場所”となるよう、自習スペースや会議室としても活用できるようにしつらえ、施設内で行われる活動や交流によるにぎわいが周辺に自然に伝わる空間構成を検討する。

(イ) 導入機能の規模

多目的スペースの整備想定規模は、約500㎡とする。なお、多目的スペースの規模については、今後の設計などの業務において変更となる可能性がある。

(ウ) 多目的スペース機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 展示利用等も想定し、博物館や共用部との連携を検討する。
- II 可動什器、展示パネル、イベント用備品等を活用し、企画展示、市民活動の成果発表、ワークショップ、説明会等、用途に応じて空間のしつらえを柔軟に切り替えられる計画を検討する。

オ 博物館機能

(ア) 導入機能の考え方

香芝市二上山博物館は、本市の歴史、文化、自然等に関する資料を収集、保管し、展示、学習機会の提供、情報発信を通じて、市民が地域の魅力に触れ、理解を深めるための拠点としての役割を担ってきた。

一方で、資料の増加に伴う収蔵環境の確保、展示及び学習機会の更なる充実、来館者が日常的に立ち寄りやすい仕組みづくり等、運営面や機能面での課題が継続的に生じている。

このため、複合施設における博物館機能は、二上山博物館が担ってきた役割を継承しつつ、複合施設としての機能連携を生かし、地域の歴史文化の保存、継承と学びの充実を図るものとして再編する。具体的には、常設展示及び企画展示等により市民が地域の歴史文化に触れ、学ぶことで、誇りや愛着を育むきっかけとなる展示機能を確保する。さらに、資料の収蔵、整理、管理、調査研究、教育普及等を一体として捉え、展示だけにとどまらないバックヤード機能を含めて整備する。

また、図書館や共用部との連携により、関連図書の展開、共用部での展示、情報発信、イベント等を重ね使いし、日常利用の中で自然に学びへとつながる仕組みを構築する。これにより、来館者の再訪意欲を高め、世代を超えた学びと交流を促進する博物館を目指す。

(イ) 導入機能の規模

香芝市二上山博物館は、本市の歴史、文化等の情報発信と学習機会の提供を担ってきた一方、収蔵環境の確保や資料の増加への対応が継続的な課題となっている。

複合施設における博物館機能は、二上山博物館が担ってきた展示、収蔵、資料整理等の機能を基本的に継承し、再編することを前提とする。単に展示スペースを整備するのではなく、資料の適切な保管と整理を調査研究や教育普及に展開するバックヤード機能を含めた博物館機能として成立させる。

導入規模は、現行の二上山博物館の施設規模（展示、収蔵等の構成）を踏まえ、収蔵庫は現状以上の規模を確保するとともに、展示スペースも同規模程度確保するよう整理する。

収蔵庫については、現状の収蔵スペース逼迫を踏まえ、将来的な資料増加も見据えた容量（面積）と保管環境（温湿度、セキュリティ等）を確保することを基本とし、基本計画において必要面積、諸室構成を整理した上で、基本設計段階で精査する。

(ウ) 博物館機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 子どもから高齢者まで、誰もが立ち寄りやすく利用しやすい博物館を目指し、図書館、共用部、貸室等の他機能と統一感のある空間づくりとする。特に図書館との連携においては、展示テーマに関連した図書の展開や学習コンテンツの相互利用等により、展示で生まれた興味を「調べる、学ぶ」行動へつなげることで、世代を超えた学びの循環を促進する。
- II 常設展示と企画展示を核とし、展示室だけで完結しないよう、共用部における小展示、ミュージアムショップ、情報発信（関連資料の紹介、デジタルサイネージ等）及びイベント等の重ね使いを通じて、施設全体に博物館機能が“にじみ出す”構成を検討する。
- III 多様な来館者が利用することを想定し、分かりやすい動線計画と適切な滞留空間（待合、休憩、観覧前後のたまり等）を確保する。展示は、子どもや初めての来館者にも理解しやすい導入展示を設けるなど、学びの段階に応じた構成を検討する。
- IV 体験、学習機会の充実を図るため、学習プログラムやワークショップ等に対応できるスペースの確保を貸室と併せて検討する。また、学校利用や親子利用にも配慮し、貸室と連携した見学や学習（ワークショップ）のしやすさ（室面積、動線）を整理する。
- V 資料の収蔵、整理、管理等のバックヤード機能については、来館者動線と明確に分離しつつ、効率的な搬入及び搬出並びに作業が行える計画とする。
- VI デジタル技術の活用（展示解説の多言語化、音声ガイド、資料情報の検索、関連情報への誘導等）により、展示の理解を深め、来館者の利便性向上を図る。

整備イメージ

図 4-5

博物館の整備イメージ

（香芝市『二上山博物館』）



カ キッズルーム機能

(ア) 導入機能の考え方

子どもと保護者が安心して過ごせる「居場所」として、天候に左右されず日常的に利用できるキッズルームを整備する。

乳幼児期から小学校低学年程度までの利用を想定し、お遊戯、交流、休憩が無理なく共存できる空間とするとともに、子育て世代が気軽に集い、子どもの成長を見守りながら過ごせる場となることを目指す。

図書館の児童コーナーなどと連携し、読み聞かせ等の活動や、子どもの興味と関心を「本に触れる、調べる、学ぶ」体験に目を向けさせるため、施設全体の動線と機能配置を工夫する。

(イ) 導入機能の規模

キッズルームの規模は、乳児向け、幼児向けのエリア分けを基本とし、利用者の滞留密度や安全確保（見守り、音及び衛生）に配慮しつつ、必要面積を整理する。

あわせて、授乳室、おむつ替えスペース、ベビーカー置場、手洗い等の付帯機能を一体的に確保することを前提に、基本計画において必要規模を整理し、基本設計段階で精査する。

ピーク利用時の混雑を想定し、出入口の幅員、受付、待ち合いの考え方、靴の脱ぎ履きスペース等の成立条件を整理する。

(ウ) キッズルーム機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 保護者の見守りや休憩がしやすい配置（見通し、荷物置場等）とし、長時間滞在しやすい居心地を確保する。
- II 入退室管理や運用ルール（受付、靴の扱い、飲食の可否等）を想定し、管理負担が過度に増えない計画とする。
- III 図書館の児童コーナー、読み聞かせスペースを共用部などと近接、連携させ、親子が施設内を回遊しやすい動線計画とする。また、音の問題にも配慮し、にぎやかゾーン、静寂ゾーンといったゾーン分けを行う。

整備イメージ



図4-6 交流プレイルームの整備イメージ
(香川県丸亀市『丸亀市市民交流活動センター マルタス』)

キ 商業施設誘致スペース

(ア) 導入機能の考え方

飲食、物販、サービス提供等の民間事業者の出店を想定し、来館者の利便性向上と滞在価値の向上を図る。

図書館、ホール、博物館、貸室等の利用者が、日常的に「立ち寄る」「休憩する」「待つ」「交流する」場として機能するよう、公共機能を補完するサービスを導入する。例えばカフェをしつらえる場合、単独の店舗として完結させるのではなく、ブックカフェとしての活用を検討し、施設全体の一体感とにぎわいを生み出す機能とする。

(イ) 導入機能の規模

商業施設誘致スペースの規模は、基本構想に示す目安（約500㎡）を踏まえつつ、導入する業態（カフェ、軽飲食、物販等）と運営形態（単独出店、複数出店、期間限定出店等）に応じて、必要床面積、座席数、バックヤード面積等の成立条件を整理する。

(ウ) 商業施設誘致スペース機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I エントランスや共用部と連続した「立ち寄りやすさ」を確保し、待合、休憩、滞在の受け皿となる配置を検討する。
- II 図書館の閲覧、学習、ホールの開演待ち、貸室利用前後の滞在等、複数の利用シーンに自然に寄り添う居場所となるよう、席配置、見通し、照明、掲示、情報発信等のしつらえを検討する。
- III 図書館との連携により、カフェ内にブックコーナーを設けるなど、図書館機能が自然に「にじみ出す」仕掛けを取り入れる。

整備イメージ

図4-7

商業施設誘致スペースの整備イメージ

(神奈川県大和市

『大和市文化創造拠点シリウス』)



ク 共用部

(ア) 導入機能の考え方

共用部は、ホール、博物館、貸室等をつなぐ機能として、来館者が自由に立ち寄り、憩い、交流し、回遊できる図書空間として整備する。共用部の面積には図書スペースは算入せず、エレベーター、階段、機械室、事務室等が含まれる。

図書館機能については、本計画で複合施設に整備予定の蔵書数（約30万冊）を踏まえた必要規模を確保しつつ、図書館の専用部だけでなく、共用部も図書館として積極的に活用することを前提に計画する。共用部に閲覧、学習、展示等と親和性の高い「図書のにじみ出し」を組み込み、施設全体が本に囲まれ、一体感が感じられる空間像を目指す。

市民活動の展示や発信（作品紹介、地域情報、デジタルサイネージ等）を取り込み、日常の滞在と催事利用の双方で、施設全体の魅力と回遊性を高める。

(イ) 導入機能の規模

共用部の規模は、各機能をつなぐ回遊動線の核として必要な幅員とスペースを確保することに加え、図書館機能の一部（閲覧、学習、関連展示、書架等）を共用部に分散配置する前提で、必要面積を整理する。

(ウ) 共用部機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 図書館的な利用を共用部へ広げるに当たり、静けさが求められるエリアと、にぎわいが生まれるエリアを適切に区分し、サイン計画やゾーニングにより利用者が迷わない構成とする。
- II 共用部は「通過動線」ではなく、座って読める、学べる、待てる、滞在の場として、閲覧席、ラウンジ、自習席等の配置を検討する。

整備イメージ

図4-8 共用部の整備イメージ
(香川県丸亀市『丸亀市市民交流活動センター マルタス』)



ケ 駐車場機能

(ア) 導入機能の考え方

複合施設は市役所、総合体育館に隣接し、公共施設が集積することから、来訪者用駐車場の確保が必要である。このため、駐車場の整備候補地は、利便性と敷地規模を踏まえ、中央公民館敷地及び旧モナミホール跡地とする。また、当該敷地には公民館機能が存続しているため、整備にあたってはその影響を考慮し、段階的整備（一期、二期）について検討を行う。

一方で、複合施設整備に伴い市役所南側駐車場が使用できなくなることから、代替機能の確保が必要となる。そこで、市役所北側に用地を確保した上で、来庁者、公用車用駐車場を先行して整備する。なお、将来における香芝市役所本庁舎を建て替える際に有効な候補地となり得ることから、平面駐車場として整備することとする。

これらの駐車場整備費は、複合施設本体事業とは別に整理する。

(イ) 導入機能の規模

立体駐車場の規模は、法的基準及び利用実態を踏まえて設定する。まず、開発指導要綱（延床50㎡/台）に基づくと、延床約14,500㎡に対し約290台が必要となる。また、総合体育館は休日のイベント時に満車となる状況が確認されており、追加需要が見込まれる。さらに、複合施設との同時利用を想定すると、駐車需要は一層増加する。以上を踏まえ、最大約600台規模の駐車場整備が必要と判断した。

一方で、市役所北側の来庁者、公用車用駐車場は、平面整備とするため現状の来訪者及び公用車の駐車台数を十分に満たせない可能性がある。このため、今後の設計段階において調整する。

コ その他

子どもから高齢者まで多くの市民が利用する公共施設として、ユニバーサルデザイン及びバリアフリーに配慮する。また、各機能へのアクセスがしやすく、分かりやすい動線計画とする。

(3) 複合施設整備イメージ



図 4-1 複合施設整備イメージパース

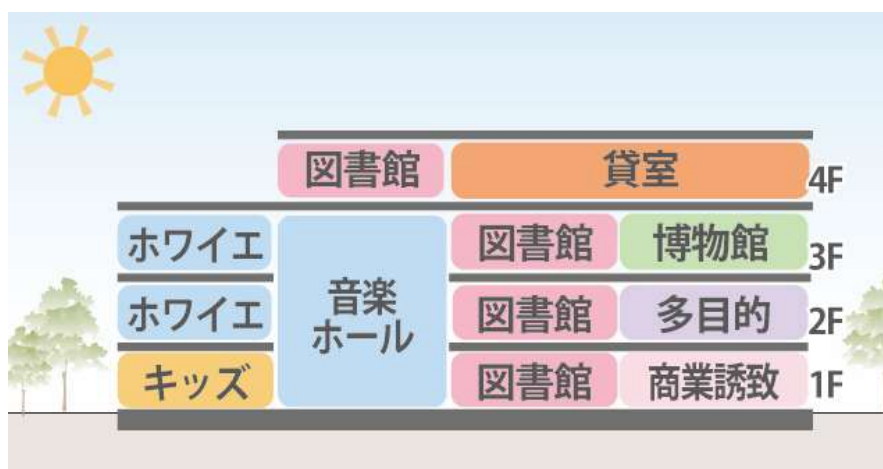


図 4-2 複合施設整備断面構成イメージ図

(4) ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の検討

本施設では、ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の考え方を踏まえ、外皮性能の向上や高効率設備の採用、運用改善等による一次エネルギー消費量の削減を基本方針とする。その上で、ZEB Oriented、ZEB Ready、Nearly ZEB 等複数の達成水準を視野に入れ、省エネルギー性能と創エネルギー導入の組合せについて検討を行う。

一方、ZEB化の推進にあたっては、初期コストの増加や事業全体への影響が想定されるため、費用対効果やライフサイクルコストを踏まえた検討が重要となる。今後、設計の進捗に応じて事業性との整合を図りながら、具体的な方針を定めていく。

(5) 概算事業費の検討

現時点での概算事業費は、以下の通りである。

基本構想の段階では、単位面積当たりの想定(55万円から80万円/㎡程度)と延床面積約14,500㎡の想定から、80億円から110億円程度と見込んでいた。ただ、昨今の建設費の高騰の影響や平米単価の高いホール機能の延床面積拡充により、14,500㎡で令和7年10月時点の概算シミュレーションを行うと、約160億円に上る見込みであることが判明している。そのため、今後、基本設計や実施設計の過程で、仕様、工程等を精査し、事業費の適正化を図る。

また、公共施設等適正管理推進事業債(集約化、複合化事業)の活用や、部分的な地方債の活用等を検討し、市の実質負担の軽減に努める。補助制度や起債制度には期限や要件があるため、都市計画上の手続とも整合させた推進体制を整える。

費用項目	基本計画での概算事業費	基本構想での想定
建設工事費 (外構整備含む)	約160億円	約80億円から110億円

なお、整備に係る資金、財源については、国の補助金及び地方債の活用を予定している。

(6) 事業手法及び運営方式の検討

ア 事業手法の種類

本計画で想定される事業手法を整理し、意思決定に向けた比較観点を提示する。

(ア)従来方式：設計、施工分離

「設計は設計者、工事は施工会社」と分けるやり方。

【良い点】設計内容が見えやすく、公平感がある

【注意点】設計と工事の“受け渡し”で手戻りが出ると、時間や費用が増えやすい

(イ)DB（デザイン・ビルド）：設計、施工一括

「設計+工事をまとめて1社（又は1グループ）に任せる」方法

【良い点】工期短縮やコスト調整（工夫、代替案）が進めやすい

【注意点】設計の中身をどうチェックするか（発注者の確認方法）が重要

(ウ)DB+E C I（アーリー・コントラクター・インボルブメント）：施工者の早期関与

「設計段階より施工者の技術力とノウハウを投入する」方法

【良い点】工期短縮、コスト抑制につながりやすい

【注意点】公平な競争（どの会社をどう選ぶか）の設計がポイント

(エ)CM（コンストラクション・マネジメント）：発注者支援

「発注者の“代わりに”工事の調整役を置く」方法

【良い点】コスト、品質、工程を“見張りやすい”

【注意点】調整や意思決定の回数が増え、体制づくりが必要

(オ)P F I（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）：官民連携

「建てるだけでなく、運営や維持管理までまとめて民間に任せる」方法

【良い点】長い目で見た維持費（L C C）を下げやすい可能性あり

【注意点】契約が複雑で準備に時間がかかり、モニタリングも難しい

(カ)コンセッション（運営権方式、部分適用含む）

「運営する権利を民間に渡し、利用料収入等で運営してもらう」方法

【良い点】集客やサービス改善の工夫が出やすい

【注意点】利用料等の“稼ぐ力”が弱い施設では成立しにくい

イ 各事業手法の比較（5段階：◎>○>△>▲>×）

手法	コスト 確実性	工期	品質、 性能担 保	柔軟性	調達難 易度	公共 性、透 明性
①従来方式 （設計、施工分離）	△	▲	○	○	○	◎
②DB（設計、施工一括）	○	○	○	△	○	○

③DB+ECI (施工者の早期関与)	◎	◎	○	△	▲	○
④CM (発注者支援)	○	△	◎	○	▲	◎
⑤PFI (官民連携)	◎	△	○	▲	▲	○
⑥コンセッション (部分適用含む)	○	○	△	△	▲	○

ウ 事業手法の検討結果

各事業手法にはそれぞれ利点と留意点があり、事業の特性や求められる条件に応じて適切な方式を選択する必要がある。本施設整備においては、工期、コスト、品質確保、運営手法等、複数の観点を踏まえた総合的な検討が必要である。そのため、今後の基本設計段階において、事業条件や整備内容の具体化を踏まえ、最適な事業手法を決定する。

エ 運営方式の種類

本計画で想定される運営方式を整理し、意思決定に向けた比較観点を提示する。

(ア)直営 (市が運営)

市(職員)が中心になって運営する方法

【良い点】市の方針を反映しやすい/公共性を守りやすい

【注意点】人員確保や専門性の確保が課題になりやすい

(イ)指定管理者制度 (民間、団体に運営を任せる)

市が選んだ事業者(企業、NPO等)に、運営をまとめて任せる方法

【良い点】民間のノウハウでサービス改善や効率化が期待できる

【注意点】任せっぱなしにならないようチェックが重要

(ウ)包括業務委託 (業務をまとめて委託)

市が主体のまま、受付、清掃、設備保守等の仕事をまとめて外部に頼む方法

【良い点】必要な業務だけ頼めて、柔軟に設計しやすい

【注意点】業務の切り分けが難しいと、責任があいまいになりやすい

(エ)PFI等に付随する運営 (SPC等)

「建てる+運営」をセットにしてSPC(特別目的会社)が長期間まとめて担う方法

【良い点】長期の維持管理まで含めて、計画的に運営しやすい

【注意点】契約が複雑/途中で見直しにくいので最初の条件づくりが大事

(オ) 民設民営（テナント運営：カフェ、売店等）

カフェやショップ等の収益が出る部分は民間が自分の責任で運営する方法

【良い点】サービスの工夫が出やすく、市の負担も軽くなりやすい

【注意点】公共施設としてのルール（価格、コンセプト）を条件で担保する
必要性がある

(カ) 駐車場運営（別枠で検討することが多い）

駐車場は、指定管理、委託、コンセッション等、別の方式で運営することがある

【良い点】料金設定や運営改善を個別に最適化しやすい

【注意点】施設全体の利用しやすさ（混雑、料金、動線）と一体で考える必要性がある

オ 各運営方式の比較（5段階：◎>○>△>▲>×）

用途	①直営	②指定 管理	③包括 委託	④PFI/ 運営	⑤民設民 営	⑥コンセッ ション
音楽ホール	△	◎	○	○	×	△
図書館	○	◎	○	△	×	×
博物館	○	○	○	△	×	×
貸室、多目的	△	◎	○	×	×	×
キッズスペース	△	○	○	×	×	×
商業施設	×	○	○	×	◎	×
駐車場 (別途検討枠)	△	○	○	△	×	○

カ 運営方式の検討結果

本施設は公共性の高い機能を多く含むことから、市が主体となる①直営を基本としつつ、各機能の特性や専門性に応じて、②指定管理者制度や⑤民設民営の活用を検討する方式が適切であると整理した。

今後は、音楽ホールや貸室等については②指定管理者制度の活用を視野に入れ、商業施設誘致スペースについては⑤民設民営を基本とする等、用途ごとに最適な運営方式を選択することを検討していく。

これにより、市の方針や公共性を確保しながら、民間ノウハウを活用した効率的で柔軟な施設運営を目指す。

(7) 今後のスケジュール

基本計画においては、想定される今後の事業内容及びスケジュールについて整理している。ただし、採用する事業手法によっては、事業内容やスケジュールが変動する可能性がある。

なお、基本設計とは別に用地取得が必要で、香芝市総合体育館南側の立体駐車場、香芝市役所北側の平面駐車場については、複合施設建設より先行して整備する必要がある。

年度		1年目				2年目				3年目				4年目				5年目			
項目	月数																				
基本設計	1 2	■	■	■																	
実施設計	1 2					■	■	■	■												
建設工事	2 7									■	■	■	■	■	■	■	■	■			
開設準備	3																		■		
供用開始	—																			■	

5 市民意向調査、ヒアリングについて

(1) 目的、位置付け

市民意向調査については、短期間で幅広い市民の意見を把握する必要があることから、比較的短期間で実施可能なアンケート方式を採用した。これにより、限られた期間の中でも一定数の回答を確保し、市民意見の全体的な傾向を把握することが可能となる。

一方で、計画の妥当性や実現性を高めるためには、既存施設を利用している関係団体から、運用面に関する具体的な意見を直接把握することが重要である。このため、アンケートによる広範な意見収集に加え、その内容の具体性を補う手段としてヒアリングを併用する方針とした。

(2) 市民アンケート、ヒアリングの概要

アンケートの調査期間は、令和7年12月下旬から令和8年1月上旬までとし、対象者は、施設を利用することが見込まれる学校法人、社会福祉法人、文化活動を行う団体等の合計190団体を抽出した。回収数は、音楽ホールが30件、貸室・多目的室が111件であった。その中でヒアリング参加を希望した一部の団体に対して、ヒアリングを行った。

(3) 市民アンケートの分析

ア 音楽ホール機能

(ア) 回答者、団体属性の概況

学校系の利用ニーズが全体傾向を強く形作っている可能性が高い一方、一般団体、文化／音楽サークル、福祉系のニーズにも考慮する必要がある。

項目	主な結果
団体種別	学校、PTA、子ども関連 19（最多）／音楽サークル 2／文化サークル 2／福祉、市民活動 1／事業者関連 1／ボランティア 1／その他 5
居住地（延べ）	香芝市内中心（延べ22）＋近郊（奈良県内の香芝市近郊 延べ12）
年代	10代以下が最多。40代から70代以上まで幅広く分布

(イ)利用規模(観覧人数)

吹奏楽部等の学校関係者については、中～大規模(800～1,500席)への要望が強い。一方で、文化サークルや音楽サークルについては、300人以下を中心とした中規模利用の需要も一定数存在している。

これらを踏まえ、客席を1階席と2階席に分けるなど、利用規模に応じて柔軟なしつらえを可能とすることで、幅広いニーズに応えられると考えている。

利用規模	件数
1,200人から1,500人まで	8
1,000人から1,200人まで	6
800人から1,000人まで	5
600人から800人まで	2
300人から600人まで	3
300人まで	3
その他	1

(ウ)所属団体の利用人数

大人数(100名超)を想定する回答が多く、舞台、バックヤード、待機/動線計画の重要度が高い。

所属団体の利用人数	件数
それ以上	12
51人から100人まで	9
31人から50人まで	5
11人から20人まで	3

(エ)利用頻度

定例利用より「年次行事、発表会、イベント型」が多い傾向にある。

利用頻度	件数
6か月以上に1回	8
4か月から6か月に1回	4
2か月から3か月に1回	3

1か月に数回	3
その他	7

(オ)利用される時間帯

特定の曜日に偏ることなく、平日、休日ともに利用されている。

利用される時間帯	件数
平日午前	12
平日午後	10
休日午前	12
休日午後	12

(カ)必要な舞台設備

「反射板」はほぼ必須である。加えて“その他”の中に、ひな壇、グランドピアノ、映像投影、録音、搬入口、ユニバーサル対応等が多く含まれる。

舞台設備	件数
音響反射板	23
脇花道	10
オーケストラピット	4
その他必要な設備	18

(キ)その他自由記述からの意見について

i 音響品質：

残響のバランスに配慮し、音響性能への高いこだわりが求められている。近隣他市町村ホールに相当する音響品質を期待する意見も見られた。

ii 学校行事、子どもの発表への適性：

舞台から客席に音が良好に響くことや、保護者が観覧できる客席規模の確保が求められている。また、学年規模での利用を想定した意見も多く、一定規模の収容能力が必要とされている。

iii 舞台、バックヤード実務：

ひな壇、緞帳、吊りマイク、照明設備等の基本的な舞台機能に加え、屋根付きの搬入口や広いバックヤード、楽屋、リハーサル室の充実が求められている。

iv ユニバーサル対応、福祉的配慮：

車椅子席の確保や難聴者支援、要約筆記スペースの設置、バリアフリーへの配慮に加え、子どもでも安全に利用できる環境が必要とされている。

v 運用、居場所性：

ロビーや休憩スペースの充実、トイレへの近接性、分かりやすい動線が重視されている。また、イベントがない時間帯でも日常的に立ち寄れる空間や、カフェ等の併設を期待する声があった。

vi 都市ブランド、象徴性：

県内外からの集客が可能な施設とし、文化の象徴として香芝市のブランド向上につながることを期待されている。

vii 映像、配信ニーズ：

録画、録音への対応に加え、プロジェクターやスクリーンの設置、ネット配信やパブリックビューイング等への対応が求められている。

viii 規模に対する強い要望：

「1,500席以上でなければコンサート等を誘致できない」といった、プロ興行の視点からの意見も挙げられている。

イ 貸室・多目的室機能

(ア)回答者、団体属性の概況

貸室・多目的室は「地域内（香芝市内中心）」「高齢層中心」「車アクセス前提」の利用が主軸と考えられる。

項目	主な結果
団体種別	文化サークル 47 / 音楽サークル 26 / ボランティア団体 17 / その他 11 / 福祉、市民活動 7 / スポーツサークル 6 / 事業者及び関連団体 5 / 学校、PTA、子ども関連 4
居住地（延べ）	香芝市内 97（中心） / 香芝市近郊の奈良県内 41
年代（延べ）	70代以上 87、60代 71 が突出
交通手段（延べ）	車（自家用）100 が最多。徒歩 42、自転車 45 も一定数

(イ)活動人数

小規模人数から中規模人数での活動が中心となっており、ニーズに応じたスペースの確保が必要となってくる。

活動人数	件数
21人から30人まで	12
11人から20人まで	41
1人から10人まで	53

(ウ)利用頻度

活動頻度としては、2週間から1か月に1回程度が最多となっているが、週1回程度で活動している団体も見られる。

利用頻度	件数
2週間から1か月に1回程度	54
週1回程度	12
週1回以上	9
その他	27

(エ) 利用される時間帯

音楽ホールのアンケートとは異なり、貸室・多目的室は「平日日中（特に午後）」の稼働が大きな軸になっている。講座、練習、集会、ボランティア活動等“普段使い”を支える枠組みが重要になる。

利用される時間帯	件数
平日午前	44
平日午後	49
休日午前	15
休日午後	19

(オ) 必要な部屋の大きさ

最も多くの回答が得られたのは中程度の「60㎡級」だが、30㎡や100㎡の回答も多い。これらを踏まえ、30㎡、60㎡、100㎡の部屋を複数室用意し、時間帯や用途に応じて利用できる計画が合理的と考えられる。

必要面積	件数
小さめ（約30㎡）	23
中くらい（約60㎡）	52
大きめ（約100㎡）	20
さらに大きめ（約150㎡）	4
150㎡以上	4

(カ) 必要な設備

60㎡級の部屋での会議や講座利用が中心となることから、机、椅子、ホワイトボードについては、不足のない量が“標準装備”として整備されていることが前提となる。

AV設備及びWi-Fi環境については、利用にあたって不可欠な要件とされている。特に、音を出す用途（カラオケ、合唱、太鼓等）と上映、講義用途が混在しやすいことから、遮音性能、AV設備、可動間仕切りの有無等について、部屋ごとに性能グレードを分けて計画することが効果的と考えられる。

必要な設備	件数
A V設備	28
W i - F i	20
和室	20
給排水	17
録音、撮影しやすい環境	16
200V電源	10
調理設備	3
その他	26

(キ) その他自由記述からの意見について

i 料金、手続き：

使用料は安価で、気軽に利用できることが求められている。また、申請手続きが分かりやすいことや、使用料に空調費が含まれることを希望する声があった。

ii 駐車場、アクセス：

車利用を前提とした意見が多く、十分な駐車場の確保が求められている。有料の場合は利用しづらいと感じる声も見られた。

iii 居場所性：

くつろげるベンチ、カフェや休憩スペースなど、気軽に立ち寄れる居場所としての要素が重視されている。自然光が入り、心地よく過ごせる空間への要望もあった。

iv 防音、音環境：

防音室への需要があり、音漏れへの配慮が求められている。また、音が響きすぎて聞き取りにくいとの意見もあり、太鼓やカラオケなどの利用を想定した吸音対策が必要とされている。

v 収納：

倉庫やロッカー（鍵付き含む）などの収納スペースに加え、麻雀牌、将棋道具、工具、手芸材料等の備品を保管できる場所が求められている。

vi 活動仕様に関する具体的要望：

踊りや着付けに対応した鏡、掲示板、ピアノ、バレエバー、床材、工作机、焼結炉等、活動内容に応じた専用設備へのニーズがあった。

(4) ヒアリングの分析

ア 音楽ホール機能

(ア) 収容規模

客席数1,000席案については、市民の通常イベント（公民館祭り等）では規模が少し大きくなり過ぎる可能性がある一方で、吹奏楽や学校行事においては不足する場合があると指摘されている。

利用者が特に課題として挙げているのは、「予約が取れないこと」「キャパシティ不足による2回公演の実施」「県内ホールの減少」であり、全体として供給不足に対する共通の危機感が見られた。

このため、座席数については「象徴性（公演誘致のしやすさ）」と「実需（学校行事、コンクール等）」の双方を満たしやすい1,200席から1,500席規模に支持が集まった。

一方で、300席程度で成立する催事も一定数存在することから、客席のクローズや前後分割、上層階の閉鎖等、可変的な運用により空席感や運営コストを抑える考え方が合理的といえる。

項目	背景、理由
1,500席以上	商業利用、プロオーケストラ等まで視野に入れるなら重要
1,300席から1,500席まで	奈良県橿原文化会館（1,304席）閉館見込みを踏まえ、中南部に同等以上が必要。1,500席は県内最大級で誘致にも有効
1,200席から1,500席まで	理想は大きめ、ただしコスト等、現実的制約も踏まえる
1,200席	吹奏楽部の定期演奏会等で1,000人規模。満席で2回公演になるのを避けたい
1,000席程度＋可変	小規模イベントにも対応する可変性が重要

(イ) バックヤード

ヒアリングを通じて、利用者からは客席数の規模以前に、舞台転換が円滑に行えること、楽器類が支障なく通行できること、搬入動線が滞らないことといった、運営面や実務面の成立性を重視する意見が多く挙げられた。これらが確保されない場合、利用意欲の低下につながり、結果として施設の稼働率が下がる懸念がある。

また、施設の複合化が進むほど、ホワイエやエントランス、動線が他機能と

干渉せず、ホール単独で完結した運用が可能であることの価値が高まるとの指摘があった。

項目	背景、理由
楽屋、舞台裏	楽屋、搬入動線、機材置場は十分に確保してほしい
楽屋（複数室、運用区分）	楽屋は男女別運用できること
搬入口	トラック搬入出が円滑でないと運用が破綻
搬入口（屋根）	搬入口は屋根付き必須（雨天時に打楽器が致命的）
搬入口	打楽器フルセット＝4 tトラック1台（又は2 t×2）が入るようにしてほしい
舞台袖、通路	舞台袖、通路が狭いと大きい楽器が通れない
下手溜まり	溜まる場所がないと入替、転換が成立しない
リハーサル室	舞台練習中に別室で準備、練習できる場所が欲しい

(ウ) 舞台規模

舞台仕様については、間口16m×奥行13.5m程度を一つの目標水準として設定することで、吹奏楽、学校行事、文化団体等複数の利用者の要求を同時に満たしやすいと考えられる。

項目	背景、理由
舞台規模に関する意見	60名から80名が演奏可能な、間口16m×奥行13.5m程度の十分な奥行を有する舞台（場合により100名規模）
	OB/OG合同演奏会で100名弱
	園児合唱80名+器楽40名+吹奏楽50名から70名

(エ) 舞台設備

舞台前方の可変機構（迫り、前舞台）については、オーケストラピットとしての用途よりも、演出や舞台面積の拡張に対応できる前舞台としての活用ニーズが優先されていることが分かった。

(オ) 音響設備

「音響を良くする」という要望については、利用内容によって求められる性能が異なることが明らかになった。吹奏楽やコンサートなどの音楽利用では、響きの豊かさ（残響）や反射板による音の立ち上がりが重視される一方

で、高齢者利用や会議・講座系の用途では、過度な反響を抑えた明瞭性の確保が重要とされている。このため、ホールについては音楽利用を主用途として位置付けた上で、反射板や可変音響装置などにより必要に応じて音響特性の幅を持たせる考え方が有効である。一方、練習室や会議室については、ホールとは異なる設計思想のもと、明瞭性と遮音性を重視した空間とし、ゾーニングによって音環境を分離して計画することが合理的と考えられる。

(カ)付帯諸室

ホール本体に加えて、リハーサル室や活動室のあり方が施設全体の使われ方を左右する重要な要素であることが示された。リハーサル室や活動室が複数確保されていれば、舞台利用の有無にかかわらず日常的な利用が見込まれ、既存の公民館において抽選倍率が高いことから、同様の需要が存在していると考えられる。

また、舞台準備や転換中に別室で練習できる機能、楽器や機材の一時置き場、十分な数の楽屋を求める声が多く、ホール利用と並行して使える付帯諸室の充実が求められている。

さらに、高齢者を含む幅広い利用を想定し、防音性能を備え、太鼓や歌唱などにも対応可能な練習室を複数設けることへの要望がある。加えて、託児を伴う利用を想定した会議室については、床仕上げに配慮し、机等を置かない「何もない状態」で柔軟に使える空間が望まれており、維持管理上のリスクが高い和室は使いにくいとの意見も見られた。

これらを踏まえると、用途や利用者層に応じた仕様を備えたリハーサル室、活動室、会議室を、貸室との連携を考慮しながら十分な室数を確保することが、施設全体の稼働率や利便性の向上につながると考えられる。

項目	背景、理由
リハーサル室、活動室 (複数)	複数あれば単独でも利用が見込める 舞台準備中に別室で練習できる機能が必要
練習室 (防音)	高齢者も安定して使える練習室、太鼓なども使用する ため、防音機能が必要。室数を十分に確保してほしい
荷物置場/機材置場	荷物置場が不可欠
託児利用できる会議室	床が絨毯等で、机等が片付いた「何もない状態」で借 りたい

(キ)旧施設、既存施設への意見

i 旧モナミホール

意見としては、バックヤードの不足、動線計画の不十分さ、舞台の面積や奥行き不足、袖の狭さ、屋根のない搬入口等、運用面での使いにくさが複数挙げられた。あわせて、音響についても「響かない印象がある」、「遮音性能が不十分」といった指摘があり、控室や楽屋が狭いことも課題として認識されていた。

一方で、音響反射板などの個々の設備については一定の評価があったものの、バックヤードや付帯空間が不足しているため、性能を十分に活かされていないとの意見が見られた。さらに、施設全体として「公民館の延長」といった印象にとどまり、自主事業の展開や対外的なイメージ形成が弱かった結果、集客面でも苦戦してきたとの指摘があった。

これらの意見から、舞台や音響単体の性能向上だけでなく、バックヤード、動線、付帯諸室を含めた総合的な計画と、施設の位置付けや発信力を意識した構成が重要であると考えられる。

ii ふたかみ文化センター

意見としては、舞台袖が十分に確保されておらず、舞台転換が成立しないといった運営面での課題が挙げられた。また、小ホールについては、客席の段差が急で、高齢者にとって安全性に不安があるとの意見も見られた。

これらの指摘から、舞台周りの余裕や転換動線の確保に加え、客席計画においても高齢者利用を含めた安全性、利用しやすさへの配慮が重要であることが示唆される。

iii 近隣他市町村のホール

意見としては、利用者が使いやすいホールではあるが、予約が取りにくく、特定時期に需要が集中していること自体が大きな課題として挙げられた。特に学校利用においては、ホールを確保できないことが活動計画そのものに影響しており、「取りにくい」状況が恒常的な課題として認識されている。一方で、舞台規模や使い勝手については「ちょうどよい」と評価する声もあり、施設の基本性能そのものよりも、供給量不足による利用機会の制約が問題の本質であることがうかがえる。

このことから、施設計画においては、舞台性能を一定水準で確保することに加え、安定して利用機会を提供できるキャパシティと稼働体制の確保が重要であると考えられる。

項目	背景、理由
旧モナミホール	バックヤード不足／動線悪い／舞台小さい、奥行不足／袖が狭い／屋根なし搬入口／遮音不足／控室狭い等 音響反射板は良い記憶もあるが、裏方不足で活かさない
ふたかみ文化センター	舞台袖不足で転換が成立しない／小ホール段差が急で危険（高齢者目線）
近隣他市町村のホール	予約が取れない（需要集中）／舞台は一定評価（「ちよどよい」）

(ク)まとめ

i ホールの主用途の考え方

音楽（吹奏楽、合唱、オーケストラ）を主用途として位置付けるのか、演劇等の利用もどこまで重視するかを整理する必要がある。

利用者からは、「中途半端な性能にならないよう、主用途を明確にしてほしい」という声が多く寄せられた。

ii 客席数と可変性をセットで考えること

客席数については、1,200席から1,500席規模を支持する意見が多くある。

一方で、300席程度の小規模なイベントの需要もあるため、席をクローズしたり分割することができる、運用しやすい可変計画が求められている。

iii バックヤードがきちんと成立していること（最優先）

4tトラックでの搬入や屋根付き搬入口、十分な楽屋、荷捌きスペース、機材置場、舞台袖や通路の広さ、転換時の「溜まり」スペース等が必要とされている。複合施設であっても、ホール単独で無理なく運営できるエントランスやホワイエ計画が重要である。

iv リハーサル室、活動室を複数確保すること

ホールの利用を支えているのは、コンクール期等の「別室での練習」と、「日常的な活動室利用」である。

複数室の確保と、防音性能の確保が重要なポイントになる。

v 音環境を分けて考えること（ゾーニング）

ホールには音楽向けの「響き」を、練習室と会議室には言葉が聞き取りやすい「明瞭性」をそれぞれ求める声があった。

また、図書館などの静かな用途と音の出る用途が干渉しないよう、配置やゾーニングへの配慮が必要である。

vi 子どもと高齢者それぞれへの安全配慮

子どもの利用では動線の分かりやすさや安全性の重視が必要とされている。高齢者の利用では、バリアフリーや段差の安全性等が重要とされており、同じ「安全」でも異なる視点で設計に反映する必要がある。

vii 運用制度（料金、減免、利用時間）について

減免制度や地域団体が使いやすい料金設定、夜間利用への対応等については、建物性能ではなく運営面の条件として整理していく必要がある。

イ 貸室・多目的室機能

(ア) 団体ごとのニーズ

A) 会議、学習、講座系

部屋の数が増えないことに加え、年間枠や登録団体優先といった制度の影響で、複数の部屋を組み合わせると使いにくい状況が繰り返し生じている。そのため、単に部屋数を増やすだけでなく、1つの部屋を分割できるような可変性のある計画が必要である。

B) 作業系（制作、加工、整理）

貸室・多目的室は、会議室用途にとどまらず、工芸などの作業にも対応できることが求められる。そのため、収納のしやすさ、汚れへの配慮、採光、搬送のしやすさといった条件が重要である。

C) 地域交流、居場所系（高齢者、子育て、多世代）

貸室・多目的室の価値は部屋の広さだけでなく、料金や活動に必要な物品保管のしやすさ、安全性、アクセスの良さ等、日常的に無理なく使い続けられる条件によって決定される。

項目	背景と理由
A) 会議、学習、講座系	遮音性の確保。部屋の分割、複数室の同時確保（調理室＋研修室等）の仕組みを検討。現状、供給不足や年間枠の影響で複数室の同時確保が難しい。
B) 作業系 (制作、加工、整理)	道具や材料の保管、汚れ、音に耐えうる部屋が必要。面積の目安は、50㎡から60㎡。重量機器据置、工具収納ロッカーが必要。照度の確保、近傍手洗い、水道／換気設備が必要。台車搬送、エレベーター動線も検討必要。
C) 地域交流、居場所系	貸室の使用料を安くする。保管場所の確保。

(イ) 各団体共通の要望

貸室・多目的室は、部屋そのものに加えて、共用の収納や台車で移動しやすい動線までを一体で整える必要がある。特に収納がない場合、利用者は活動に必要な物品を毎回運ぶ必要があるため、継続的な利用が難しくなる。

(ウ) 音に対する配慮

「静かな利用（図書館、学習、読み聞かせ）」と「音の出る利用（作業、太鼓、集会）」については、部屋ごとの遮音だけで対応するのではなく、距離の取り方や上下配置、緩衝空間を含めたゾーニングで解決すべき、という要望があった。

(エ) 予約制度、運用

施設の規模計画だけでなく、部屋の予約方法や、団体活動で必要となる複数の部屋を同時に確保できる仕組みが重要である。また、複合化を活かして用途の異なる部屋を会議室として使えるようにすることも求められている。すべてを専用室とすることは難しいため、複合施設の利点を生かして、楽屋を会議室に利用できる仕組みを作るなど工夫が必要である。

(オ) まとめ

i 用具や資材の収納

活動に必要な物品や資材の収納については、活動を継続するための前提条件として、あらかじめ確保する必要がある。

ii 振動を伴う活動

太鼓等の振動を伴う活動については、音を抑えたい場所からは距離を取り、音が出ても支障の少ない場所を隣接させる等、配置やゾーニングに配慮して計画する。

iii 可変性のある貸室のしつらえ

複合化を活かして用途の異なる部屋を会議室として使えるようにすることも求められている。

ウ 図書館機能(運営側)

(ア)バックヤードについて

現状、博物館と搬入口を共有しているが、搬入が重なることは少ないため、共用のままで構わないという意見があった。搬入頻度としては、週1回の定期搬入で、トラック1台程度と考えられる。4tトラックでの搬入は基本的には想定されていない。

(イ)諸室について

ヒアリングを通じて、ボランティアの方が使用する作業スペースやロッカースペースが不足していることが明らかになった。このため、作業の円滑化を図り、サービスの質を高めていく観点から、管理諸室のあり方について再検討が必要と考えられる。また、読み聞かせスペースについては、現状では閉鎖的であったり、日常空間から切り替わる「別世界感」が十分でないとの指摘があった。今後は、他事例も参考としながら、よりオープンで、思わず入ってみたい空間となるよう工夫が求められている。

(ウ)音に対する配慮

静かに集中して読書や学習ができる場所が求められる一方で、ファミリー層や子どもが入りたくなるようなある程度にぎわいのあるエリアも必要との意見があった。そのため、用途に応じて空間を分けるなど、ゾーン分けを工夫した計画が必要である。

(エ)飲食エリア

現状、ふたかみ文化センター内の既存図書館では飲食エリアが設けられていないが、複合施設では、小規模な飲食コーナーを設けたいという要望が挙げられている。

(オ)IC化※、BDS(盗難防止システム)※

予算面の検討は必要であるものの、運営面ではまずIC化を進め、図書管理の効率化を図りたいという意向が示されている。このため計画にあたっては、書架配置やゲート位置、持ち出し境界の設定等について、BDS導入を前提とした合理的な動線計画とすることが重要であると考えられる。

※IC化とは…

ICタグ等を活用し、資料や利用者情報を非接触で管理する仕組みへ移行すること。図書館では、蔵書管理や貸出・返却処理の効率化、サービスの高度化を目的として導入される。

※BDS(盗難防止システム)とは…

貸出未処理資料の持ち出しを検知する図書館用セキュリティ設備。ICタグ等と連動し運用される。

(カ) 博物館との連携

博物館展示空間に書籍を持ち出す方式は管理上の負担が大きくなるため、博物館に隣接する位置に「地域資料コーナー」を共同で設ける構成の方が、管理面や運営面から見ても実現性が高いという意見があった。また、両機能の連携については「展示」の拡張として捉えるのではなく、「調べる、学ぶ、地域を知る」という行為の連続性をつくることにより、より強い相乗効果が生まれると考えている。

エ 博物館機能(運営側)

(ア)バックヤードについて

i 収蔵、作業室

収蔵、作業室については、スペースが逼迫しており、基本的に資料は廃棄できないという性質上、保管資料が年々増加していく状況にある。

一方で、ガラス越しに収蔵資料を見せるなどの「収蔵展示」は有効な手法であるとの認識が共有された。計画において特に重要なのは、博物館における本質的な面積不足が、展示空間ではなく、収蔵、整理、作業といったバックヤード機能にある点である。収蔵展示は、こうした収納不足を単なる裏方空間として扱うのではなく、その存在自体を価値として可視化できる点に意義がある。また、来館者に博物館の「裏側の活動」を伝えることで、施設全体の魅力向上にもつながる。

その一方で、収蔵展示の導入にあたっては、セキュリティ、温湿度管理、照明条件等、求められる性能や管理条件が増える点にも十分留意しなければならない。また、作業室についてもすべてガラス張りのラボのような部屋にすると運用が難しくなるため、見せる作業と見せない作業のすみわけが重要となる。

また、新築後、建材等から発生するアルカリガスの影響により、収蔵庫が一定期間使用できない可能性がある。文化庁規定等により「枯らし」が必要となる場合には、工程や移転計画への影響を考慮する必要がある。展示は石資料が中心で影響が小さい一方、収蔵品については直ちに移設できない可能性がある。

この「枯らし」の問題は、移転計画、仮保管、全体工程に関わる重要なリスクであり、基本計画段階から織り込む必要がある。あらかじめ「収蔵品移転の難易度」、「仮収蔵の要否」、「想定される枯らし期間」を発注条件として整理しておくことで、後工程での手戻りを抑えることができる。

ii 搬入口

図書館運営側意見と同様、図書館搬入と重なることが少ないため、共用としても良いとの認識が共有された。ただし、館内の搬入ルートは分けたいという意見もあった。搬入サイズとしては、大型物品で4 t車1台分が想定される。

(イ)諸室について

展示構成を大きく変更する場合には、委員会等での検討を含め、2年から3年単位の議論が必要となることが想定される。そのため、現行の展示構成

を基本的に維持しつつ、新たな出土資料等を柔軟に紹介できる企画展的なスペースを求める意見があった。計画においては、「常設展示を変更する」ことよりも、「企画や更新が可能な余白をハードとして確保する」方が、より実現性が高いと考えられる。

また、企画展スペースについては、一般的な貸室として位置付けられると本来の目的での活用が困難になるため、ボランティア側からも同じ趣旨の懸念が示されている。このため、企画展としての利用を優先できるよう、運用上の優先順位やルールをあらかじめ計画段階で整理しておく必要がある。

(ウ) 図書館との連携

前述のとおり、図書館と連携した「地域資料コーナー」を設けることで、来館者が日常的な利用の中で博物館の活動や価値に触れ、より深く博物館を知ってもらえるような提案があった。

6 今後の設計への課題

本計画では、複合施設の整備に向けて、導入機能や規模、事業手法等について整理を行ったが、今後、基本設計、実施設計に進むに当たっては、引き続き検討が必要な課題も残されている。

まず、施設全体の面積構成については、延床面積約14,500㎡という全体規模を前提に検討を進めてきたが、昨今の物価高騰や平米単価の高い音楽ホール機能の延床面積拡充により、概算事業費が増加する結果となっている。このため、各機能について利用実態や運営方法を踏まえ、必要十分な規模となっているかを改めて精査し、諸室面積の見直しや合理化を検討する必要がある。

また、駐車場計画については、本計画において基本的な考え方を整理しているが、必要台数の設定、配置、整備時期等については、今後の設計段階において具体化を図る必要がある。特に、市役所の来庁者駐車場と公用車駐車場については、市役所北側に平面駐車場として整備する計画としていることから、駐車台数の不足が懸念される。

あわせて、本計画は地区計画の策定や開発行為等の都市計画上の手続きを考慮する必要があり、これらの進捗状況や協議内容によっては、今後の事業内容やスケジュールが前後する可能性がある。この点も踏まえ、今後の設計段階においては、工程全体を見据えながら柔軟に対応していくことが重要である。